
加工食品輸出拡大に向けた課題・ボトルネック

加工食品輸出拡大に向けた課題・ボトルネック ～対応必須の重点課題

 = 現在弊社で重点的課題として検討している項目

		課題該当国			
		米国	EU	中国	その他
高 障壁のハードル 低	輸出課題	輸出課題の概要			
	原材料の規制	- 天然着色料やステビア等、日本では使用可能だが海外では原料含まれると輸出不可になる添加物が多く存在する - 完全水素添加油脂等日本では入手困難な代替原材料が多い			
	EU-HACCP	- EUに輸出する際、動物性原材料はEU-HACCP遵守が求められる - 日本でほとんどの原材料メーカーはEU-HACCPに対応していないので、動物性原材料調達先が限られてしまう			
	放射能規制	- 中国では、東日本の10都県で製造・加工された原材料は一切輸入禁止 - 中国以外でも、アジア圏では放射能証明が輸出の商品登録にあたり求められる			
	容器包材	- EUは特に食品に接触する部位の成分分析の証明書等手続きが煩雑で、使える素材も日本より限定されている - サステナビリティの観点から今後は急に従来の容器包材が使えなくなる可能性がある			
	食品表示	米国カリフォルニア州では有害物質の警告表示のラベルが必要になる等、国や地域ごとに細かい規定があり個別対応が求められる			
	商標登録・知的財産権	- 自社の銘柄で先に商標を登録されてしまうと、その銘柄で製品を輸出できなくなる - 中国は特にリスクが高く、サンプル品を現地に送るだけでも商標を先んじて登録されてしまうケースがある			
	FSMA	- セミナー受講やFSSC22000を取得すれば対応できるわけではなく、PCQI養成等の取り組みも必要で対応にはコストも時間もかかる - 英文の書面が多いので、輸出実績が少ない企業や中小企業は苦戦する			
	有害物質規制	- 多くの国では、HACCPのコンタミ規格を順守すれば特段問題になる事はない - 一方、米国カリフォルニア州のProp65では制限対象となる有害物質の項目も多く、基準も厳しく分析や表記等にコストがかかる			

加工食品輸出拡大に向けた課題・ボトルネック ～対応必須ではないが重点課題

=現在弊社で重点的課題として検討している項目

		該当製品カテゴリー			
		菓子	香辛料	味噌・醤油	水産加工品
高 障壁のハードル 低	輸出課題	輸出課題の概要			
	物流	・ コロナで物流費が5倍から10倍に上昇 ・ コンテナ不足でそもそも出荷できる量に制限がかかっている ・ 中国に対する輸出需要増加で、日本への寄港が減便しており、コロナ後も日本経由便の減便が続く事が予想される			
	賞味期限	・ 海外での販売に際しては、最低6カ月・基本は1年程度の賞味期限が求められるケースが多い ・ 商品そのものの工夫に加え、包材対応・輸出向け商品のリスク係数の検討等を行う必要がある			
	ハラール	・ 国によってハラールの定義や認証が異なり個別対応が求められる上に毎年の更新が必要になる ・ コンタミ上の問題で製造ラインを別に作る必要がある ・ 違反を犯した時宗教問題に繋がり、センシティブ			
	Non-GMO	・ 米国やトルコ等国によっては、精密なトレーサビリティが求められる、国産原料ではトレーサビリティが担保しきれない事も ・ 国内の検査機器では検出しきれないほど精緻な分析を求める国もあり、海外に分析を外注せざるを得ないケースも			
	オーガニック	・ 有機JAS認証は多くの国のオーガニック規格と同等性が認められている ・ 取得コストも高く認可まで数年要するので、有機JAS認証の新規取得はハードルが高いが、既に取得済みの生産者は少なくない			
	フリーフロム	・ Non-MSG、グルテンフリー等欧米を中心に体に害をもたらすリスクのある物質を取り入れない引き算の健康志向が高まっている ・ 特に欧米では、健康を訴求する製品には当然のようにフリーフロムを求められる			